

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 15日

事業所名:おかえりホームきゅら海

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	2階にも広いスペースを確保し、雨天でも色々活動を楽しむことが可能にしている	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	適切に配置済み	加算要件を満たす人員配置もあり。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	83%	17%	トイレも含め車いすでの移動可能	2階への容易な移動手段も検討して行く。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	67%	33%	定例ミーティングにて実施	活動終わりの振り返りを行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%	事業所評価アンケートを実施し、職員間で結果を共有して改善につなげるようにしている。	事業所評価アンケートを実施し、職員間で結果を共有して改善につなげるようにしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		ホームページのおしらせ欄で公表
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	現在は保護者の方と社内評価のみ	必要に応じて外部評価を検討。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83%	17%	職員個々に応じた資格、研修を受けている	今後もより多くの研修機会を設けて行く。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	支援計画書、アセスメントシートを作成し、それらに基づいた支援を実施	連絡帳でのやりとり、送迎時に保護者との面談を行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	17%	支援計画書、アセスメントシートを作成し、それらに基づいた支援を実施	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	定例ミーティングにて実施	季節ごと、イベントなども取り入れて活動している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	定例ミーティングにて実施	季節ごと、イベントなども取り入れて活動している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83%	17%	定例ミーティングにて実施	季節ごと、イベントなども取り入れて活動している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	支援計画書を踏まえて作成	個々の児童に応じて、集団、個別の活動を組み合わせている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼、業務終了時のミーティングにて確認	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	業務終了時のミーティングにて実施	複数の視点から考えられるように意見交換を活発に行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	連絡帳、業務日誌、個人日誌を記録している	記録物の見直しも行っていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的実施	6ヶ月に1度、計画の見直しを行うために職員間で話し合い、計画書を更新している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%	ガイドラインに基づき実施	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	適任者が参加	管理者、児童発達管理責任者、その他担当者が参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	適切に実施	保護者を通して情報共有。必要に応じて学校とも連携している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	50%	50%	現在は対象利用者が無し	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	67%	33%	相談支援事業所を通じて情報共有を実施	随時、見学、訪問してもらい意見交換を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	必要に応じて実施	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%	相談支援事業所を通じて情報共有を実施	随時、見学、訪問してもらい意見交換を行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	50%	50%		こども食堂やグループ企業の人達との交流を行っている。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	67%	33%	定期的に参加	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	状況に応じて面談実施	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	17%	83%		今後、SST講習など検討。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	実施している	契約時に説明。その後も問い合わせに応じて対応。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	実施している	モニタリング時には特に時間を設けるようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17%	83%		今後検討
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	実施している	電話及び面談にて対応。また、担当者は重要事項説明書に記載し説明。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		保護者からの反応の良さを踏まえ、最近ではSNSを利用し、日々の様子がより分かりやすいように発信している。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	実施している	個人情報ファイルは専用棚に保管。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	視覚的により分かりやすくなるように工夫をしている。	今後も色々な観点から工夫してゆく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	50%	夏祭りなどイベントを実施	グループ企業のイベントに利用児たちも参加している。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	マニュアル作成済み	事業所内に常設。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的実施	マニュアル作成済み。訓練とのすり合わせを行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	研修実施済み	今後も定期的に研修に参加する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	研修実施済み	支援計画書に記載し、説明を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	対象児童なし	保護者との連携、J享保共有を行う。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	マニュアル作成済み	事業所内に常設。ミーティングにて状況共有、対策を考えている。